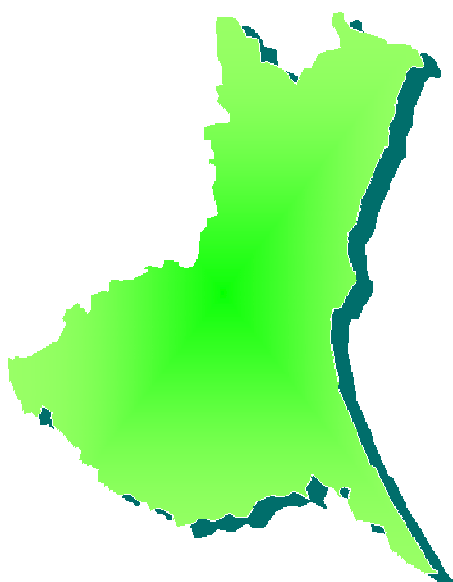


茨城県農林水産業の概況



令和 7 年 6 月

茨城県農林水産部

目 次

1	茨城県の概況	1
2	農業の概況～本県農業の地位～	3
	(1) 販売農家数	
	(2) 農業産出額	
	参考資料：本県農業の地位、農地、農家	
3	農業産出額	9
	(1) 農業産出額	
	(2) 生産農業所得	
	(3) 本県の主な農産物の生産動向	
	(4) いばらきの野菜・果物・肉の買える店、食べられる店	
	参考資料：本県オリジナル品種や、ブランド化を目指す品種等	
	参考資料：本県のブランド畜産物	
	参考資料：6次産業化、直売所	
	参考資料：農林水産物の輸出	
4	森林・林業の概況	22
	(1) 本県森林の特徴と地位	
	(2) 本県の林産物の生産動向	
	参考資料：森林湖沼環境税を活用した主な取組事例	
5	水産業の概況	27
	(1) 本県水産業の特徴と地位	
	(2) 本県水産業の生産動向	
	(3) 経営体及び漁業就業者の動き	
	(4) 栽培漁業	
	(5) 漁港等の漁業生産基地	
	参考資料：本県の代表的な魚介類	
	参考資料：いばらきの地魚取扱店	
	参考資料：茨城県の漁港及び港湾	

1 茨城県の概況

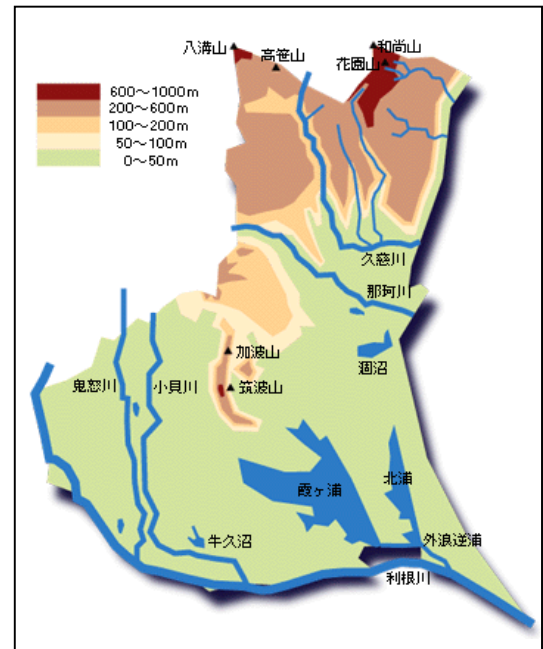
(1) 位置・面積

本県は東京の中心から北東に 40km～160km に位置し、総面積は約 61 万 ha で全国第 24 位です。このうち、耕地面積は約 16 万 ha で全国第 3 位、森林面積は約 19 万 ha で全国第 39 位です。

(2) 地形

本県の北部は、阿武隈山地の南端部にあたる八溝・久慈・多賀の諸山地が連なっており、その間に久慈川・那珂川流域の平坦地が広がります。また、県南部は関東平野の東部をなす平坦な地形となっており、広大な可住地を有しています。

本県の農地は、利根川、那珂川、霞ヶ浦流域の水田地帯と、那珂、行方、稲敷、石岡といった台地の畑作地帯、さらに県北の中山間地帯とに大別されます。



(3) 海岸線・湖

琵琶湖に次いで全国で 2 番目に大きな湖である霞ヶ浦（北浦を含む）と、鹿島灘に面する約 195km の長い海岸線を有しています。

(4) 平均気温・特産品

茨城県の年平均気温は、13～14.5℃の範囲で温暖であり、様々な動植物の南限北限の境となっています。このような気象条件等を生かし、数多くの農林水産物が生産されています。

◇ 地域の気象条件等を活かした特産品

みかん（つくば市）、りんご（大子町）、お茶（大子町・坂東市等）、

干しいも（ひたちなか市等）、千両・若松（神栖市波崎地区等）

江戸崎かぼちゃ*（稲敷市、牛久市桂町）、飯沼栗*（茨城町）

水戸の柔甘ねぎ*（水戸市、城里町、茨城町）

奥久慈しゃも*（大子町、常陸大宮市、常陸太田市、高萩市）

行方かんしょ*（行方市、潮来市、鹿嶋市、鉾田市、小美玉市、かすみがうら市）

*地理的表示（GI）の登録をした産品

◇ 茨城県の面積と人口

	茨城県	全 国	本県の 順位
総面積 (ha) *1	609,754	37,797,326	24
可住地面積 (ha) *1	388,890	12,295,418	4
耕地面積 (ha) *2	158,300	4,272,000	3
森林面積 (ha)	*4 187,014	*3 25,024,810	*3 39
総人口 (千人) *1 男女計	2,840	124,947	11

*1 社会生活統計指標－都道府県の指標－2024 基礎データ－B 自然環境 公表データは 2022 年時点
(総務省令和 6 年 2 月 20 日公表)

*2 令和 6 年耕地面積 (7 月 15 日現在) (農林水産省令和 7 年 2 月 28 日公表)

*3 森林資源の現況 (林野庁令和 4 年 3 月 31 日現在)

*4 林政課資料 (令和 7 年 4 月 1 日現在)

2 農業の概況 ～本県農業の地位～

(1) 販売農家数

本県の農業は、我が国の農業の中でも重要な地位を占め、販売農家数は全国第1位となっています。

◇ 本県の農業を表す主要な指標（※詳細は別添参考資料参照）

区 分		茨城県	全 国	本県の 順位
農 業 構 造	販売農家数（千経営体） *1	44	1,028	1
	農業経営体数（千経営体） *1	45	1,076	1
	うち主業経営体数（千経営体） *1	10	231	4
	基幹的農業従事者数（千人） *1	58	1,363	2
農業産出額（億円） *2		4,536	94,952	3
生産農業所得（億円） *2		1,534	32,921	3

*1 2020年農林業センサス

販売農家 : 経営耕地面積 30 a 以上又は農産物販売金額 50 万円以上の農家
 主業農家 : 農業所得が主（農家所得の 50%以上が農業所得）で、65 歳未満の自営農業従事 60 日以上、世帯員がいる農家
 基幹的農業従事者 : 農業就業人口のうち、仕事として主に農業に従事した者。

*2 生産農業所得統計（令和5年農業産出額及び生産農業所得全国及び都道府県別）

(2) 農業産出額

本県の令和5年の農業産出額は 4,536 億円で、北海道、鹿児島県に次いで全国第3位です。また、首都圏への重要な食料供給基地となっており、東京都中央卸売市場における本県産青果物の取扱金額のシェアは 21 年連続で日本一となっています。

◇ 東京都中央卸売市場における本県産青果物の取扱金額とシェア

（単位：億円）

年	全体	茨城（金額シェア）	順位
H27	5,664	566（10.0%）	1位
H28	5,865	617（10.5%）	1位
H29	5,701	602（10.6%）	1位
H30	5,688	567（10.0%）	1位
R 1	5,346	522（9.8%）	1位
R 2	5,506	562（10.2%）	1位
R 3	5,356	527（9.8%）	1位
R 4	5,502	562（10.2%）	1位
R 5	5,663	593（10.5%）	1位
R 6	5,952	659（11.1%）	1位

参考資料：本県農業の地位

区 分		年次	茨城県			全国		全 国 の 順 位				
			実数	単位	順位	実数	単位	1	2	3	4	5
農業構造 (注1)	総農家数	R2年	71,761	戸	2	1,746,990	戸	長野	茨城	兵庫	福島	新潟
	販売農家数	"	43,920	戸	1	1,027,782	戸	茨城	新潟	福島	長野	兵庫
	自給的農家数	"	27,841	戸	5	719,208	戸	長野	愛知	兵庫	岐阜	茨城
	農業経営体数	"	44,852	戸	1	1,075,580	戸	茨城	新潟	長野	福島	兵庫
	個人経営体	"	44,009	戸	1	1,037,231	戸	茨城	新潟	福島	長野	兵庫
	主業経営体数	"	9,654	戸	4	230,844	戸	北海道	青森	熊本	茨城	千葉
	準主業経営体数	"	4,809	戸	9	142,528	戸	新潟	福島	岩手	長野	兵庫
	副業的経営体数	"	29,546	戸	1	663,859	戸	茨城	兵庫	長野	福島	新潟
	団体経営体	"	843	戸	18	38,349	戸	北海道	新潟	鹿児島	長野	熊本
	法人経営体	"	770	戸	9	30,700	戸	北海道	鹿児島	新潟	長野	熊本
	基幹的農業従事者数	"	57,496	人	2	1,362,914	人	北海道	茨城	長野	熊本	福島
	耕地面積	R6年	158,300	ha	3	4,272,000	ha	北海道	新潟	茨城	青森	岩手
	田	"	93,900	ha	6	2,319,000	ha	北海道	新潟	秋田	宮城	福島
	普通畑	"	58,500	ha	3	1,118,000	ha	北海道	鹿児島	茨城	千葉	長野
	樹園地	"	5,570	ha	12	248,600	ha	静岡	青森	和歌山	愛媛	長野
	牧草地	"	370	ha	26	585,900	ha	北海道	岩手	青森	沖縄	宮城
	1戸当たりの耕地面積	(注2)	2.21	ha	17	2.45	ha	北海道	青森	秋田	富山	宮城
	耕地利用率(田畑計)	R5年	91.8	%	13	91.0	%	佐賀	福岡	滋賀	福井	宮崎
農業生産 (注3)	農業産出額	R5年	4,536	億円	3	94,952	億円	北海道	鹿児島	茨城	千葉	熊本
	米	"	703	億円	6	15,193	億円	新潟	北海道	秋田	山形	宮城
	園芸	"	2,328	億円	2	38,656	億円	北海道	茨城	長野	熊本	千葉
	いも類	"	375	億円	2	2,301	億円	北海道	茨城	鹿児島	千葉	長崎
	野菜	"	1,664	億円	2	23,243	億円	北海道	茨城	熊本	千葉	愛知
	果実	"	124	億円	20	9,590	億円	青森	長野	山梨	和歌山	山形
	花き	"	165	億円	5	3,522	億円	愛知	千葉	福岡	静岡	茨城
	畜産	"	1,353	億円	8	37,212	億円	北海道	鹿児島	宮崎	岩手	千葉
生産農業所得		"	1,534	億円	3	32,921	億円	北海道	熊本	茨城	鹿児島	千葉

注1) 2020年農林業センサスによる。耕地面積は令和6年耕地面積(令和6年7月15日現在)(農林水産統計)による。

注2) 1戸あたりの耕地面積は、令和6年耕地面積を2020年農林業センサス総農家数で割り返した数値。

注3) 生産農業所得統計(令和5年生産農業所得全国推計表、都道府県別推計統計表)による。

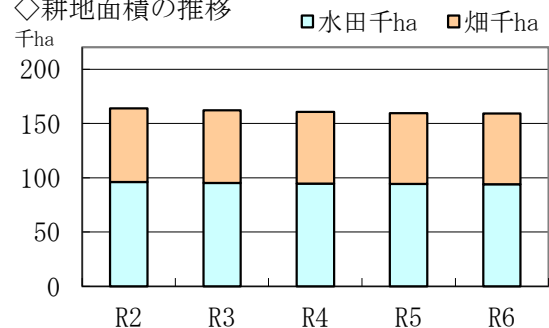
(1) 耕地面積

耕地面積は県土（61 万 ha）の約 3 割（16 万 ha）を占め、全国第 3 位ですが、年々減少しており、耕地利用率も全国平均をやや下回っている状況です。

◇ 本県の耕地面積（資料：耕地及び作付面積統計）

年	耕地面積 ha	水田 ha	畑 ha
R2	163,600	96,100	67,600
R3	162,300	95,300	67,000
R4	160,700	94,700	65,900
R5	159,400	94,300	65,200
R6	158,300	93,900	64,500

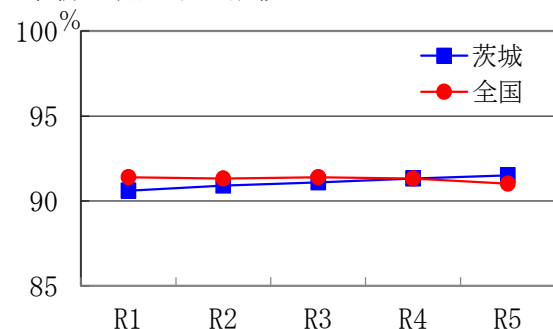
◇ 耕地面積の推移



◇ 耕地利用率（資料：耕地及び作付面積統計）

年	茨城県	全国
R1	90.9%	91.4%
R2	91.1%	91.3%
R3	91.3%	91.4%
R4	91.5%	91.3%
R5	91.3%	91.0%

◇ 耕地利用率の推移



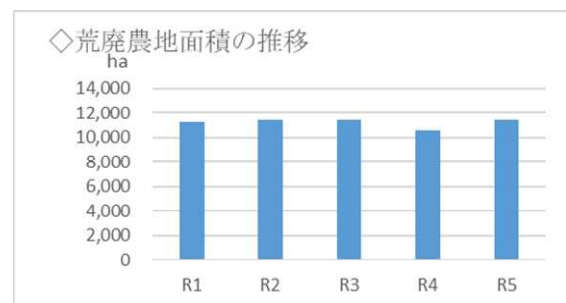
(2) 荒廃農地

令和 6 年 3 月 31 日現在の荒廃農地の面積は 11,392ha で、農地の有効活用が課題となっています。

◇ 荒廃農地面積の推移（資料：農林水産省 HP「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査結果等」）

年	茨城県 ha	全国 ha
R1	11,280	283,536
R2	11,393	281,831
R3	11,429	259,502
R4	10,600	253,217
R5	11,392	256,676

◇ 荒廃農地面積の推移



※荒廃農地：現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地。

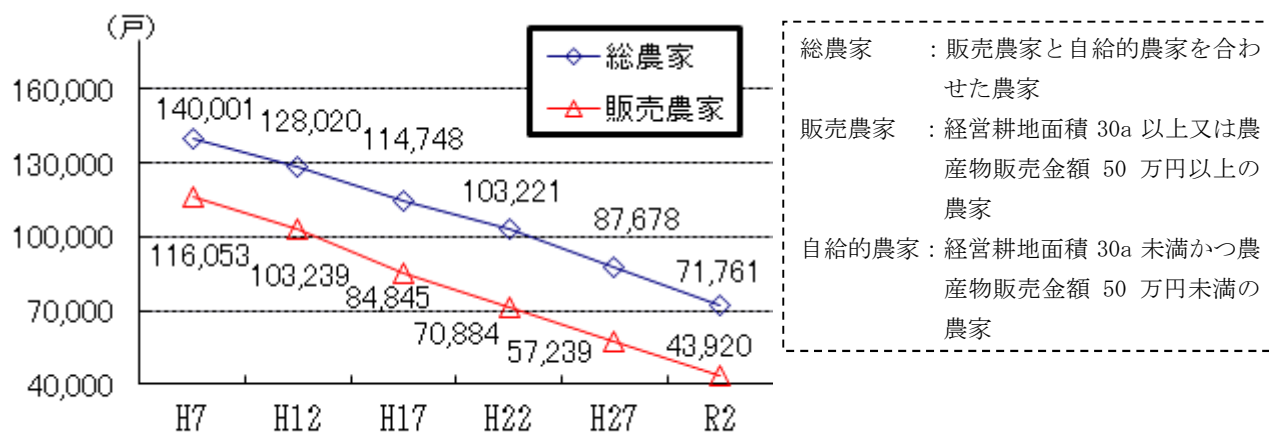
※R2年度まで：非農地判断済農地を含む R3年度以降：非農地判断済農地を除く

参考資料：農家

(1) 農家戸数

令和2年2月1日現在の総農家戸数は7万1,761戸で、平成27年に比べ1万5,917戸（▲18.2%）減少しました。このうち、販売農家は4万3,920戸で、平成27年に比べ1万3,319戸（▲23.3%）減少しました。

◇ 本県農家数の推移（資料：2020年農林業センサス）



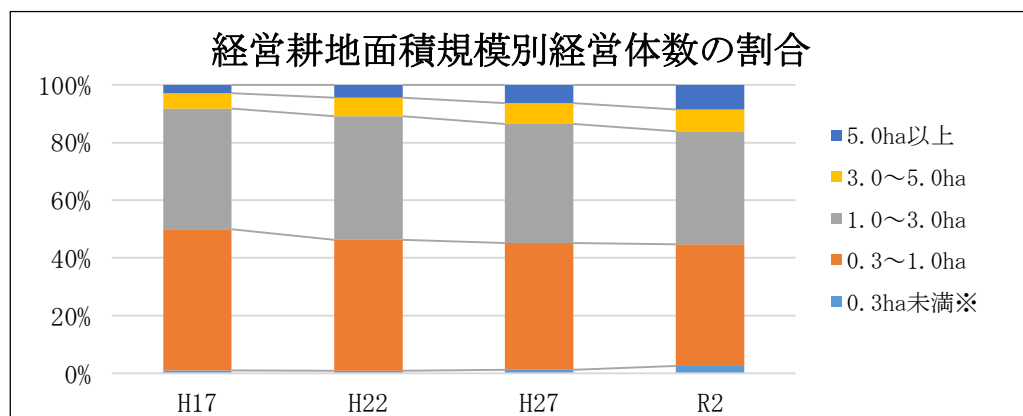
(2) 規模別経営体数

総農家数が減少する中で、3.0ha 以上の大規模農家は増加しています。一方、経営規模 0.3～3.0ha の農家は減少しており、大規模な専業経営と小規模な農家に分化しています。

◇ 経営耕地面積規模別経営体数（単位：経営体）

規模 \ 年	H17 (構成比)	H22 (構成比)	H27 (構成比)	R2 (構成比)
0.3ha 未満※	871 (1.0%)	657 (0.9%)	679 (1.2%)	1,125 (2.5%)
0.3～1.0ha	41,778 (48.9%)	32,395 (45.3%)	25,506 (44.0%)	18,922 (42.2%)
1.0～3.0ha	35,847 (41.9%)	30,705 (42.9%)	23,988 (41.4%)	17,596 (39.2%)
3.0～5.0ha	4,600 (5.4%)	4,655 (6.5%)	4,195 (7.2%)	3,414 (7.6%)
5.0ha 以上	2,415 (2.8%)	3,130 (4.4%)	3,621 (6.2%)	3,795 (8.5%)
計	85,511	71,542	57,989	44,852

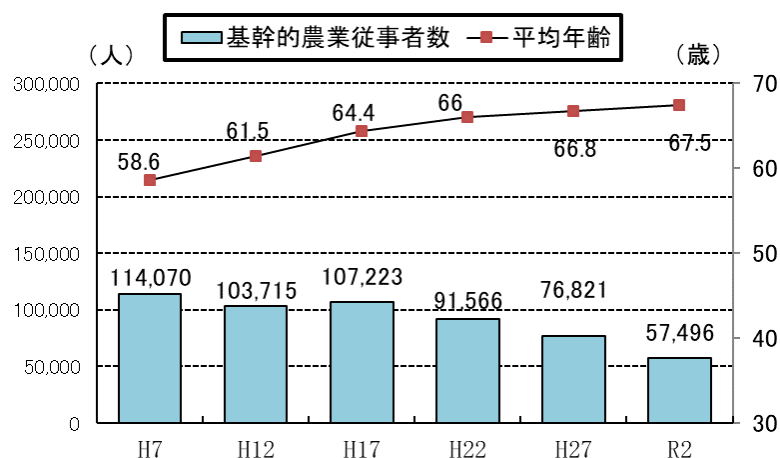
※0.3 未満には経営耕地なしの経営体を含む。



(3) 基幹的農業従事者数

基幹的農業従事者数は年々減少しており、高齢化が進行しています。

◇ 本県の基幹的農業従事者数と平均年齢（資料：農林業センサス）



基幹的農業者の平均年齢

年	茨城県	全国
H7	58.6 歳	59.6 歳
H12	61.5 歳	62.2 歳
H17	64.4 歳	64.2 歳
H22	66.0 歳	66.1 歳
H27	66.8 歳	67.0 歳
R2	67.5 歳	67.8 歳

(4) 認定農業者数

本県の認定農業者は、平成 27 年度に経営所得安定対策等のうちゲタ・ナラシ対策の対象要件に認定農業者が追加されたことから、認定数が大きく増加しました。一方で、認定農業者のうち、法人数及び法人の占める割合は年々高くなっています。

◇ 本県の認定農業者数等の推移（資料：農林水産省経営局経営政策課調べ）

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
認定農業者数(a)	8,481	8,450	8,588	8,603	8,478	8,231	8,102	8,108	8,167
(a)のうち法人数(b)	530	588	632	658	696	731	757	803	836
法人化率 (b/a) (%)	6.3	7.0	7.4	7.6	8.2	8.9	9.3	9.9	10.2

(5) 新規就農者数

近年、新規就農者数は増加傾向でしたが、令和5年度は減少に転じました。特に、Uターンでの就農は減少傾向にあります。

◇ 本県の新規就農者数の推移（資料：農林水産部農業技術課調べ）

（単位：人）

区分（年齢） \ 年度		H22	H27	R2	R3	R4	R5
青年 (16～44 歳)	新規学卒	42	32	21	21	30	8
	Uターン	114	106	96	66	63	47
	新規参入	44	27	54	67	64	63
	雇用就農	—	135	133	155	158	148
	計	200	300	304	309	315	266
中高年齢者 (45～65 歳)	Uターン	43	15	21	24	31	18
	新規参入	19	4	11	22	25	19
	雇用就農	—	27	21	13	34	30
	計	62	46	53	59	90	67
合計		262	346	357	368	405	333

※H22 までの年齢区分は、青年（16～39 歳）、中高年齢者（40～65 歳）。雇用就農者数は含まない。

※H27 以降は国の年齢区分変更に伴い、青年（16～44 歳）、中高年齢者（45～65 歳）で、雇用就農者数を含む。

3 農業産出額

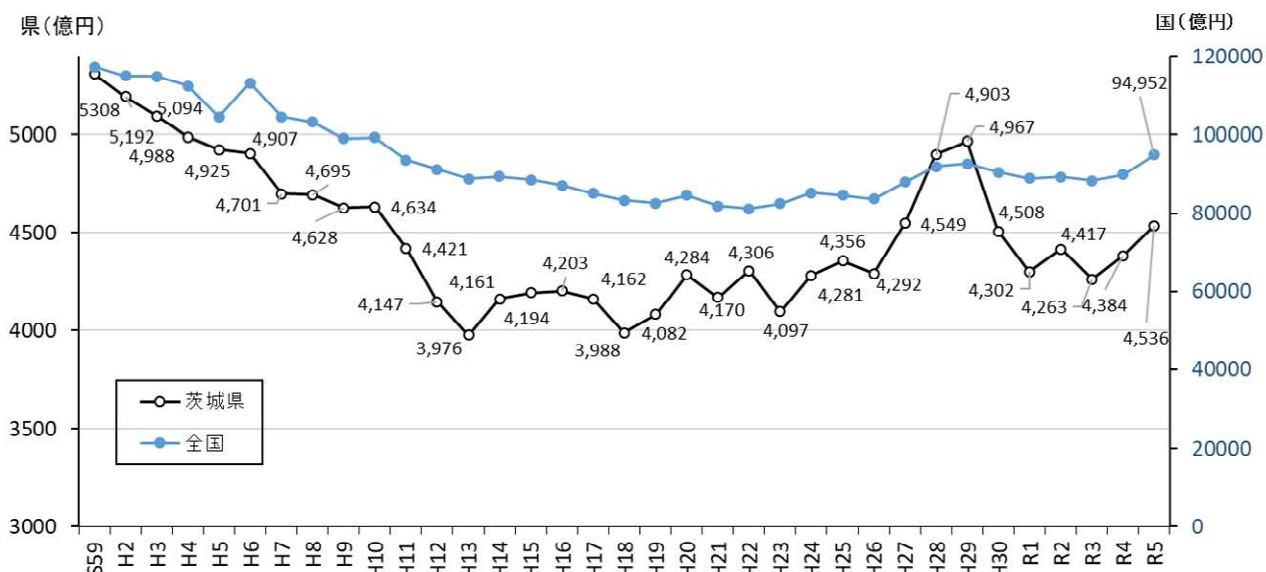
(1) 農業産出額

本県の農業産出額は、平成13年の3,976億円を底として以降、増加傾向で推移しており、令和5年は前年比152億円増の4,536億円で、全国順位は前年に引き続き全国第3位となりました。

内訳は園芸（いも類、野菜、果実、花き）が51.3%（2,328億円）、畜産が29.8%、米が15.5%であり、園芸部門の割合が高く、かんしょやメロン等産出額上位の品目が多いことも特徴です。

◇ 農業産出額推移

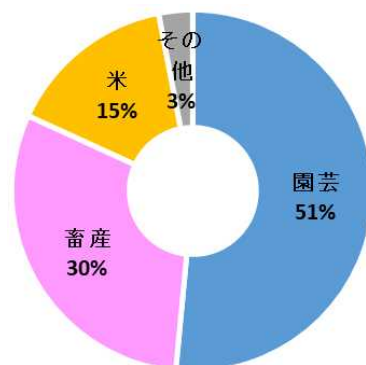
（資料：生産農業所得統計）



◇ 農業産出額と構成比

（単位：億円、％）（資料：生産農業所得統計）

区 分		年 度		R4		R5	
				産出額	構成比	産出額	構成比
合計 (①+②+③)				4,384	100.0	4,536	100.0
耕種	耕種計 ①			2,939	67.0	3,082	67.9
	米			611	13.9	703	15.5
	麦類			6	0.1	9	0.2
	雑穀・豆類			26	0.6	20	0.4
	園芸(いも類+野菜+果実+花き)			2,276	51.9	2,328	51.3
	いも類			391	8.9	375	8.3
	野菜			1,611	36.7	1,664	36.7
	果実			111	2.5	124	2.7
	花き			163	3.7	165	3.6
	工芸農作物			4	0.1	4	0.1
畜産	種苗・苗木類・その他			16	0.4	18	0.4
	畜産計 ②			1,314	30.0	1,353	29.8
	肉用牛			188	4.3	196	4.3
	乳用牛			223	5.1	236	5.2
	豚			330	7.5	405	8.9
	鶏			572	13.0	514	11.3
加工農産物	その他畜産物			1	0.0	2	0.0
	加工農産物 ③			131	3.0	100	2.2



令和5年 農業産出額内訳

※合計が総数と一致しないのは、四捨五入による。

◇ 品目別産出額順位（令和５年）

（資料：生産農業所得統計）

全国第１位	11 品目	かんしょ、かんしょ切干、メロン、ピーマン、れんこん、切り枝、こまつな、みずな、芝、くり、チンゲンサイ
全国第２位	9 品目	鶏卵、ねぎ、レタス、はくさい、日本なし、もやし、らっかせい、みつば、そば
全国第３位	6 品目	ほうれんそう、にら、スイートコーン、マッシュルーム、こんにゃくいも、みょうが

◇ 品目別農産物産出額の順位と構成比（令和５年）

（単位：億円、％）

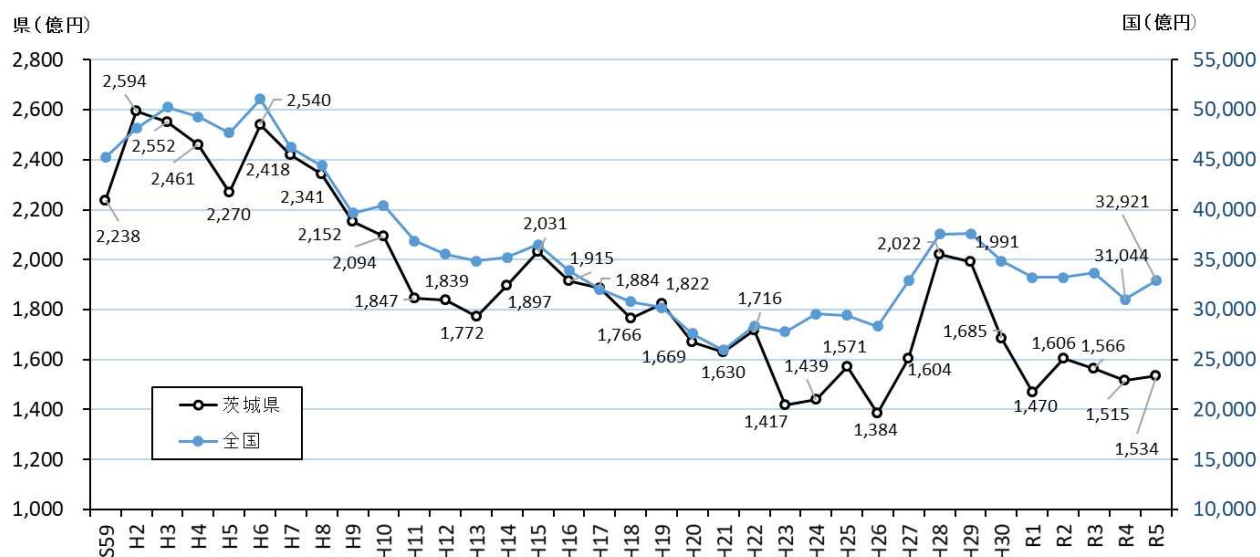
	農産物名	産出額	構成比	全国順位
順位	県 計	4,536	100.0	3
1	米	703	15.5	6
2	鶏卵	460	10.1	2
3	豚	405	8.9	6
4	かんしょ	343	7.6	1
5	生乳	226	5.0	7
6	肉用牛	196	4.3	9
7	ピーマン	143	3.2	1
8	メロン	142	3.1	1
9	ねぎ	138	3.0	2
10	はくさい	123	2.7	2
11	レタス	119	2.6	2
12	トマト	111	2.4	4
13	いちご	104	2.3	7
14	かんしょ切干	99	2.2	1
15	れんこん	88	1.9	1
16	日本なし	71	1.6	2
17	キャベツ	68	1.5	4
18	こまつな	66	1.5	1
19	ほうれんそう	64	1.4	3
20	きゅうり	56	1.2	7
21	切り枝	51	1.1	1
22	きょうな（みずな）	49	1.1	1
23	芝	41	0.9	1
24	にら	37	0.8	3
25	ブロイラー	36	0.8	20
26	すいか	35	0.8	6
27	ばれいしょ	32	0.7	4
28	なす	31	0.7	6
29	だいこん	31	0.7	8
30	くり	26	0.6	1

(2) 生産農業所得

本県の実業農業所得は、平成 26 年の 1,384 億円を底とし、令和 5 年は前年よりも 19 億上げ、1,534 億円となり、全国順位は第 3 位となりました。

◇ 生産農業所得推移

(資料：生産農業所得統計)



(3) 本県の主な農産物の生産動向

(a) 米

本県の米の作付面積は 62,500ha (令和 6 年) で全国第 6 位、生産量は約 33.9 万 t で全国第 7 位となっています。全国有数の生産量を誇る主力品種の「コシヒカリ」をはじめ、県南地域等の早場米地帯を中心に関東でも早期に収穫・出荷されている「あきたこまち」や、本県育成のオリジナル品種の「ゆめひたち」「ふくまる SL」「一番星」など、様々な特徴を持つ品種が各地域で作付けされています。

◇ 米の産出額等

(資料：農林水産統計)

	年度	本県	全国
産出額	R5 (R4)	703 億円 (611 億円)	15,279 億円 (14,015 億円)
作付面積	R6 (R5)	62,500ha (59,700ha)	1,359,000ha (1,344,000ha)
10a 当り収量	R6 (R5)	542 kg (530 kg)	540 kg (533 kg)
作況指数	R6 (R5)	103 (101)	101 (101)



◇ 水稻収穫量の推移

(資料：農林水産統計)

年 度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
全 国(千t)	7,986	8,042	7,822	7,780	7,762	7,763	7,563	7,269	7,165	7,345
茨城県(千t)	355	361	358	358	344	360	345	319	316	339
全国順位	5	7	6	7	7	7	6	6	7	7

また、本県では、各地域で「おいしさ」や「安全・安心」等にこだわった「地域オリジナル米」が栽培されています。

主な産地	・奥久慈の恵うまかっぺ	・潮来あやめちゃん
	・筑波北条米	・めぐみちゃん
	・うまさ駆け抜ける美浦そだち	・ななかいの里コシヒカリ
	・みずほちゃん	・笠間の粋 かさまのう米

(b) そば

本県で品種育成し、栽培されている常陸秋そばは、全国の有名そば職人から高い評価を得ています。

◇ そば収穫量

(資料：農林水産統計)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
茨城(t)	1,980	2,090	1,770	2,020	2,010	2,770	2,060	3,000	3,050	2,670
全国順位	3	2	4	3	6	4	7	3	2	3

(c) いも類

かんしょの作付面積は7,810ha(令和6年)で全国第2位、産出額は343億円(令和5年)で全国第1位となっています。

また、ほしいもの産出額は100億円(令和5年)で全国第1位となっており、シェアは9割以上を占めています。

品種については、以前の「ベニアズマ」、「タマユタカ(ほしいも用)」に代わり、近年は、生食、ほしいも用ともに「べにはるか」(甘みが強く、肉質が粘質)が主流となっています。



◇ かんしょの産出額等

◇ (資料：農林水産統計 生産農業所得統計 R5データ、作物統計調査 R6データ)

順位	県名	産出額(億円) (R5)	作付面積(ha) (R6)	収穫量(t) (R6)
1	茨城県	343(31%)	7,810(25%)	199,200(28%)
2	鹿児島県	195(18%)	9,490(30%)	218,300(30%)
3	千葉県	185(17%)	3,400(11%)	83,300(12%)
	全 国	1,096	31,800	717,000

ばれいしょの作付面積は1,590ha(令和5年)で、ポテトチップスなどの加工用品種では、「トヨシロ」、「ワセシロ」、青果用では、「とうや」、「メイクイン」、「男爵薯」、「キタアカリ」などの品種が栽培されています。

(d) 野菜

◇ 指定野菜 13 品目(ばれいしょ除く)の作付面積等

(資料：農林水産省野菜生産出荷統計 R5 年データ)

区分	キャベツ	きゅうり	さといも	だいこん	トマト	なす	にんじん
面積(ha)	2,390	459	242	1,090	879	409	794
全国順位	4	5	13	7	2	3	5
傾向	→	↘	↘	↘	↘	↘	→

区分	ねぎ	はくさい	ピーマン	レタス	たまねぎ	ほうれんそう
面積(ha)	2,010	3,280	535	3,220	175	1,340
全国順位	2	1	1	2	13	4
傾向	↗	→	→	↘	↗	↗

※傾向は、直近の3ヶ年と5年前の3ヶ年の平均面積を比較。

◇ 茨城県の作付面積が全国上位の品目(13品目外)

(資料：農林水産省 野菜生産出荷統計 R5 年データ)

区分	れんこん	メロン	みずな	ちんげんさい	みつば	カリフラワー	ごぼう
面積(ha)	1,770	1,180	996	482	157	112	787
全国順位	1	1	1	1	1	3	2
傾向	↗	↘	↗	→	↘	↘	↘

※傾向は、直近の3ヶ年と5年前の3ヶ年の平均面積を比較。

◇ メロン (資料：農林水産省 生産農業所得統計 R5 年データ、野菜生産出荷統計 R5 年データ)

- ・本県のメロンは産出額、作付面積、収穫量とも全国第1位です。

県内の主な産地は銚田市、八千代町、茨城町です。

順位	県名	産出額(億円)	作付面積(ha)	収穫量(t)
1	茨城県	142(21%)	1,180(21%)	37,500(26%)
2	熊本県	127(19%)	810(14%)	24,100(17%)
3	北海道	108(16%)	786(14%)	19,400(13%)
	全 国	682	5,640	145,300



◇ ピーマン (資料：農林水産省 生産農業所得統計 R5 年データ、野菜生産出荷統計 R5 年データ)

- ・本県のピーマンは産出額、作付面積、収穫量とも全国第1位です。

県内では鹿行地域を中心に栽培されています。

順位	県名	産出額(億円)	作付面積(ha)	収穫量(t)
1	茨城県	143(22%)	535(17%)	33,000(30%)
2	宮崎県	123(19%)	282(9%)	25,500(18%)
3	高知県	58(9%)	120(4%)	13,500(9%)
	全 国	633	3,090	144,000



(e) 果実

令和5年の本県樹園地面積は5,630ha(前年比95.9%)、果樹産出額は124億円(同111.7%)で、本県農業産出額全体の約2.7%を占めています。

主な品目には、収穫量が全国第2位のなし、全国第1位のくり(令和5年:3,870t)があり、その他に、りんご、ぶどう、かき、ブルーベリー等が栽培されています。

◇ なし (資料: 農林水産省 生産農業所得統計 R5 年データ、果樹生産出荷統計 R5 年データ)

- ・本県のなしは、産出額全国第2位、結果樹面積第2位、収穫量第2位です。
主要な品種として、幸水(5割)、豊水(3割)、新高(1割)等が栽培されています。

順位	県名	産出額(億円)	結果樹面積(ha)	収穫量(t)
1	千葉県	81(11%)	1,250(13%)	22,400(12%)
2	茨城県	71(10%)	846(9%)	19,400(11%)
3	栃木県	53(7%)	704(7%)	15,800(9%)
—	全 国	716	9,820	183,400



(f) 花き

本県の花き生産は、小菊、グラジオラス等の切り花の他、若松、千両、柳などの切り枝類など露地栽培が大半を占めています。

本県花きの令和5年の栽培面積は3,711ha(前年比100.1%)、令和5年の産出額は165億円(同101.2%)で、本県農業産出額全体の約3.6%を占めています。

◇ 花きの種類別作付面積

(資料: 農林水産省 花き生産出荷統計 R5 年データ、花木等生産状況調査 R5 年データ、芝は茨城県調べ R5 年データ)

種 類	作付面積(ha)	主要品目等
切花類(切枝類含む)	545	切枝、小菊、ばら、グラジオラス等
鉢物類	70	シクラメン、洋ラン等
花壇用苗物類	66	パンジー等
芝	3,030	
計	3,711	



(g) 畜産

近年、生産者の高齢化や飼料価格の高騰などから家畜飼養戸数は減少傾向にあります。

令和5年畜産産出額は1,353億円であり、本県の農業産出額の約29.8%を占めており、全国順位では第8位となっています。畜種別では、鶏は514億円で第7位（うち鶏卵は460億円で第2位）、豚は405億円で第6位、生乳は226億円で第7位、肉用牛は196億円で9位であり、全国の中で上位に位置しています

また、本県を代表する畜産物として、銘柄畜産物の「常陸牛」、「常陸の輝き」、「ローズポーク」、「奥久慈しゃも」が育てられています。

◇ 本県の家畜飼養頭羽数（R6.2.1 現在）の推移

（資料：畜産統計）

	乳用牛 飼養頭数(頭)	全国 順位	肉用牛 飼養頭数(頭)	全国 順位	肉豚 飼養頭数(頭)	全国 順位	採卵鶏 飼養羽数(千羽)	全国 順位	ブロイラー 飼養羽数(千羽)	全国 順位
H24	28,600	8	53,600	16	591,900	6	12,534	1	(1,707)	－
H25	27,900	8	53,900	15	582,900	6	13,151	1	1,717	17
H26	26,700	8	52,800	14	559,500	6	12,648	1	1,487	18
H27	25,500	8	51,000	14	(540,600)	－	(13,295)	－	(1,660)	－
H28	24,200	8	50,200	15	557,700	6	12,840	1	1,613	17
H29	24,100	8	49,700	15	546,300	6	13,433	1	1,552	17
H30	23,800	8	49,700	14	552,000	6	13,879	1	1,233	21
R1	24,500	7	49,200	14	466,400	6	15,167	1	1,135	21
R2	24,300	7	50,200	15	(482,300)	－	(15,863)	－	(1,765)	－
R3	23,800	7	49,900	16	513,400	6	17,756	1	1,327	19
R4	24,000	7	49,400	16	420,700	7	15,142	1	1,435	20
R5	24,400	7	52,200	15	458,400	7	12,652	2	1,265	19
R6	23,200	7	52,300	14	424,000	7	12,310	2	1,350	19

※平成27年及び令和2年の肉豚、採卵鶏、ブロイラーの飼養頭羽数、及び平成24年のブロイラーの飼養羽数は畜産課の調査結果を（ ）で参考値として記載する。

(4) いばらきの野菜・果物・肉の買える店、食べられる店

茨城県産品を取り扱う販売店や料理店の店舗を指定し、イメージアップや販売促進を図っています。

買える店：年間を通して茨城県産農産物を販売している店

食べられる店：茨城県産の食材を使ったメニューを提供する料理店

区分	買える店（うち県外）	食べられる店（うち県外）
県産品販売指定店、提供店	288（－）	211（3）
常陸牛販売指定店・推奨店	289（107）	368（120）
常陸の輝き販売指定店・飲食指定店	33（3）	51（12）
ローズポーク販売指定店	152（19）	63（7）
奥久慈しゃも料理店・販売店	62（25）	165（70）

※海外店舗を含む

（R7.3 現在）

参考資料：本県オリジナル品種や、ブランド化を目指す品種等

品 種 名	概 要	
水稻 ふくまる SL		茨城県オリジナル水稻品種「ふくまる SL」は、これまでの「ふくまる」にイネ縞葉枯病抵抗性を付与した品種で、R2 年に県の奨励品種に採用及び品種登録出願公表しました。大粒で、炊き増えがよく、冷めても粘りがあり食味が低下しにくい品種です。また、高温の年にも白未熟粒の発生が少なく、品質が安定しています。現在は、中食・外食向けに加えて、家庭用の精米にも取り組むなど、販路の拡大を進めています。 参考)栽培面積：R1 年 754ha、R2 年 796ha、R3 年 975ha、R4 年 1,003ha、R5 年 1,236ha、R6 年 1,333ha
常陸大黒		茨城県オリジナル花豆品種「常陸大黒」は、ベニバナインゲンとしては国内初の種皮色が黒一色で、輝くような光沢のある高品質・大粒の品種です。H14 年に品種登録しました。現在は県北中山間地域を中心に栽培されています。県内の企業によって菓子類等の加工品も開発されています。 参考)栽培面積：H28 年 472a、H29 年 347a、H30 年 230a、R1 年 108a、R2 年 67a、R3 年 80a、R4 年 52a、R5 年 46a、R6 年 22a
メロン イバラキング		茨城県オリジナルメロン品種「イバラキング」は、上品な香りと甘さ、なめらかな口あたりとジューシーな果肉が魅力の春メロンで、H22 年に品種登録しました。低温でも肥大性が良く、本県産の通常の春メロンよりも 1 割以上果実が大きくなります。現在はトップブランド化を目指し、認知度の向上と贈答需要の拡大に取り組んでいます。 参考)栽培面積※2：R1 年 32.9ha、R2 年 38.5ha、R3 年 44.0ha、R4 年 47.0ha、R5 年 49.5ha、R6 年 51.0ha ※2：収穫年の栽培面積
なし 恵水		茨城県オリジナル梨品種「恵水」は、9 月上旬～下旬に収穫できる中生品種で、H23 年に品種登録しました。平均糖度は 13%と高く、酸味は少な目で、果実は 600 g 前後の大玉で食べ応えがあります。現在はトップブランド化を目指し、産地とともに、1 万果に 1 果と言われる「幻の恵水」の取組等による認知度向上を図っています。 参考)栽培面積(成木換算)：H30 年 18.6ha、R1 年 22.5ha、R2 年 27.4ha、R3 年 33.8ha、R4 年 38.6ha、R5 年 43.2ha、R6 年 47.5ha
ぶどう シャインマスカット		農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成されたぶどう「シャインマスカット」は、平成 18 年 3 月に品種登録された欧州系品種です。果皮色が輝くような黄緑色で、上品なマスカット香があり、肉質硬く、食味も良好で皮ごと食べられます。茨城県では、独自に高品質栽培技術を開発し、普及を図っています。 参考)栽培面積：H30 年 11.4ha、R1 年 11.4ha、R2 年 11.6ha、R3 年 11.5ha、R4 年 14.0ha、R5 年 15.3ha、R6 年 17.1ha
いちご いばらキッス		茨城県オリジナルイチゴ品種「いばらキッス」は、H24 年に品種登録しました。果実の形状、甘さと酸味のバランスが良く食味が優れます。生産技術の普及、生産の拡大、品種の認知度向上を進めています。 参考)栽培面積：R1-2 年 1,095a、R2-3 年 1,120a、R3-4 年 1,193a、R4-R5 年 1,239a、R5-R6 年 1,263a、R6-R7 年 1,234a
花のオリジナル品種		県オリジナル品種として、小菊 15 品種、グラジオラス 5 品種、カーネーション 3 品種、千両 2 品種を育成、品種登録を行い、花きの生産振興を図っています。 小菊「常陸サマーライト」(写真左)栽培面積：R5 年 50a、グラジオラス「常陸はなよめ」(写真右)栽培面積：R5 年 65a

参考資料：本県のブランド畜産物

○常陸牛



常陸牛とは、茨城県内の指定生産者が約 30 ヶ月にわたり飼育した黒毛和牛のうち、(公社) 日本食肉格付協会の枝肉取引規格の歩留等級 A 又は B 等級かつ肉質等級が 5 と 4 等級のもので、茨城県常陸牛振興協会が認定したものです。

常陸牛の状況

(各年度末現在)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
出荷頭数 (頭)	8, 710	8, 579	8, 815	9, 532	10, 136	11, 004	10, 885	11, 101	11, 908
生産者数 (戸)	171	161	152	150	146	145	145	139	140
指定店・推奨数 (店)	531※	553※	567※	585※	584※	586※	608※	636※	657※

※海外店舗を含む

○常陸の輝き



常陸の輝きは、茨城県畜産センターが開発したデュロック種の系統豚「ローズ D-1」を交配した三元豚です。専用の飼料でじっくり育て上げており、やわらかく、旨味があり、香りが良い肉質が特徴です。

常陸の輝きの状況

(各年度末現在)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
出荷頭数 (頭)	500	7, 640	17, 263	19, 642	19, 515	16, 771	18, 472
生産者数 (戸)	3	7	7	6	6	7	7
販売店数 (店)	－	40	57	64	72	70	84

○ローズポーク



ローズポークは、県花「バラ」にちなんで命名された銘柄豚です。県が開発した高能力な系統豚を交配して生産した豚に、県内の指定生産者が大麦を加えた専用飼料で育てた、きめ細やかで適度な脂肪を含んだ風味のある豚肉です。

ローズポークの状況

(各年度末現在)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
年間生産頭数 (頭)	30, 635	30, 285	31, 469	33, 195	36, 278	39, 249	36, 525	34, 629	39, 737
生産者数 (戸)	29	28	26	24	22	20	18	15	13
販売店数 (店)	216	221	220	221	199	197	193	197	215

○奥久慈しゃも



奥久慈しゃも（生産者団体：奥久慈しゃも生産組合）は、血統要件や平飼いの飼育面積など厳しい条件をクリアした豊かな風味の地鶏です。平成 30 年 12 月に地鶏としては全国で初めて地理的表示（GI）保護制度に登録されました。

奥久慈しゃもの状況

（各年度末現在）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
生産羽数（羽）	46,969	50,739	44,351	43,323	46,159	41,157	35,155	39,741	47,406
生産者数（戸）	10	9	9	9	9	9	7	7	8
販売店数（店）	206	206	223	232	205	201	207	205	224

参考資料：6次産業化、直売所

(1) 6次産業化に取り組む経営体数

「農産物の加工」を行っている経営体数は令和2年で1,298経営体であり、平成27年比で約1.3倍となっています。また、「海外への輸出」も、平成27年比で約2.4倍と大きく増加しています。

◇ 農業生産関連事業を行っている経営体数

事業内容	茨城県			全国		
	H22	H27	R2	H22	H27	R2
農産物の加工	1,502	981	1,298	34,172	25,068	29,950
貸農園・体験農園等	103	79	30	5,840	3,723	1,533
観光農園	343	257	213	8,768	6,597	5,275
農家民宿	13	4	5	2,006	1,750	1,215
農家レストラン	28	23	29	1,248	1,304	1,244
海外への輸出	8	12	29	445	576	412

(資料：農林業センサス)

(2) 6次産業化関連事業の販売金額

令和5年度の本県の6次産業化関連事業の年間販売金額（農産物の加工と農産物直売所の年間販売金額の合計額）は、約553億円と減少し、全国第15位となっています。

◇ 6次産業化関連事業※の年間販売金額

R2			R3			R4			R5 ※2		
順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)
1	北海道	150,350	1	北海道	145,426	1	北海道	159,521	1	北海道	154,601
2	静岡	98,347	2	静岡	102,433	2	静岡	96,699	2	静岡	105,459
3	福岡	81,049	3	熊本	77,284	3	長野	87,137	3	熊本	87,009
4	熊本	77,509	4	愛媛	76,756	4	熊本	84,644	4	愛媛	82,540
5	愛媛	75,412	5	福岡	76,147	5	愛媛	80,112	5	千葉	81,180
14	茨城	52,959	15	茨城	55,480	15	茨城	58,137	15	茨城	55,290

※1 農産物の加工と農産物直売所の年間販売金額の合計 出典：農林水産省 6次産業化総合調査

※2 R5の値はR7年3月31日公表の第1報の値

(3) 県内の直売所数

直売所数は近年減少傾向で推移しているものの、直売取引による市場外流通は、6次産業化や地産地消の推進において重要な役割を担っています。

◇ 県内の有人直売所数 (資料：農産物直売所等実態調査、販売戦略課調べ)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
県北	37	36	41	42	42	43	43	41	41	23	23	19	19
県央	52	49	50	52	51	48	48	49	44	25	21	21	20
鹿行	29	29	31	30	30	31	31	31	30	24	25	22	21
県南	108	102	107	110	108	106	97	90	95	79	71	73	76
県西	67	66	64	62	60	58	58	54	53	37	41	33	42
JA直売所										65	63	62	59
合計	293	282	293	296	291	286	277	265	263	253	244	230	237

参考資料：農林水産物の輸出

本県農林水産物の輸出実績（令和５年度）は、青果物で 578 百万円、米で 710 百万円、畜産物（常陸牛、鶏卵）で 465 百万円、水産物で 4,440 百万円（令和５年※）となっており、特に農畜産物において増加傾向にあります。

※水産物は年（暦年）で集計

青果物は、アジア向けかんしょの輸出が堅調に増加したことにより、輸出額が前年度比 114%と増加しました。

米については、シンガポール及び米国を中心に、欧州など他の国々への輸出も拡大し、輸出額が前年度比 183%と大幅に増加しました。

畜産物は、常陸牛のタイ向け輸出が大きく増加したことや、香港向けの鶏卵輸出が増加したことなどにより、輸出額が前年度比 110%と順調に拡大しました。

水産物については、主にサバの不漁の影響で、冷凍品、加工品ともに輸出量が減少し、全体で前年度比 66.4%（金額は 78.0%）と前年より大幅に減少しました。

◇ 輸出実績の推移

（百万円）

品目	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	前年度対比 （%）
青果物	159	312	430	506	578	114
米	218	291	361	389	710	183
畜産物	266	135	184	422	465	110
水産物	5,400	5,285	6,888	5,690	4,440	78
全体	6,043	6,022	7,863	7,006	6,193	88

※ 県事業等を通じて関与した事業者などへの聞取調査結果（県調べ）

※ 水産物は年度ではなく年（暦年）で集計

（その他） 常陸牛海外販売推奨店数 R5：50 店舗

（タイ 13 店舗、ベトナム 20 店舗、シンガポール 3 店舗、アメリカ 8 店舗、フィリピン 6 店舗）

4 森林・林業の概況

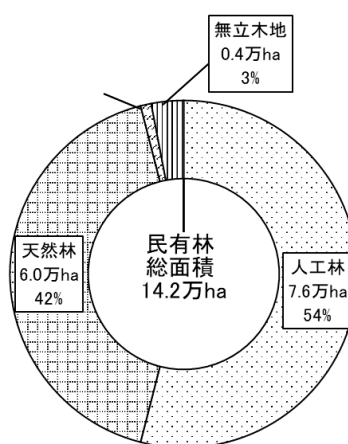
(1) 本県森林の特徴と地位

(a) 本県の森林面積は18.7万haで、県土総面積61万haの31%を占めています。森林面積のうち14.2万haが民有林であり、戦後、積極的にスギやヒノキの造林が進められた結果、人工林率は全国でも上位となっています。これらの森林は、県北部を中心とする山岳林地帯と、県中央部から南西部にかけての平地林地帯とに大別されています。

茨城県の森林分布（森林部分は黒色表示）



民有林面積の内訳（R7.4）



(b) 県北部を中心とする山岳林は、主としてスギやヒノキなどの人工林からなる代表的な林業地帯であり、森林資源は年々増加し、本格的な利用期を迎えています。

県中央部から南西部の平地林は、都市化の進展に伴い年々減少していますが、都市近郊の生活環境保全のための森林として期待が一層高まっています。このため都市化の進展との調和を図りながら、森林の整備を進めていく必要があります。

(c) 県内の民有林のうち人工林の森林蓄積[※]は、約2,386万m³、1ha当たりの蓄積は、314m³となっており、年々増加する傾向にあります。これは全国平均381m³（令和4年3月31日、林野庁調べ）の約8割となっています。

※森林蓄積：森林における立木の材積をいう。

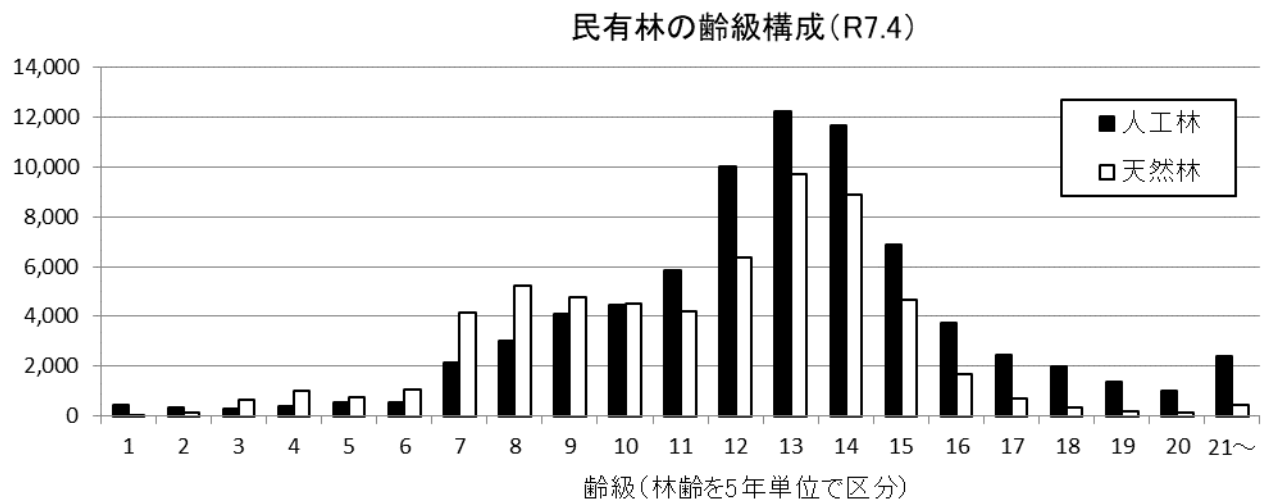
◇ 本県林業の地位

区分	単位	茨城県	全国	順位	シェア (%)
森林面積	ha	*1 187,014	*2 25,024,810	*2 39	*2 0.7
国有林面積	ha	*1 45,044	*2 7,656,573	*2 21	*2 0.6
民有林面積	ha	*1 141,970	*2 17,368,237	*2 39	*2 0.8
民有林人工林	ha	*1 75,976	*2 7,846,111	*2 38	*2 1.0
林野率	%	*1 31	*2 67	*2 45	—
民有林人工林率	%	*1 54	*2 45	*2 17	—
林業経営体数	戸	*3 407	*3 34,001	*3 30	*3 1.2

*1：林政課資料（令和7年4月1日現在）*2：森林資源の現況（令和4年3月31日、林野庁）

*3：2020年農林業センサス

◇ 民有林の齡級構成

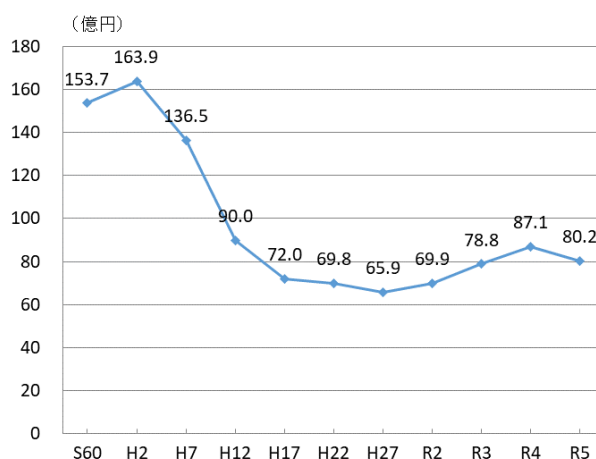


(2) 本県の林産物の生産動向

令和5年の林業産出額は80.2億円で全国22位です。森林面積は下位の一方、林業産出額は比較的上位に位置していますが、昭和60年に比べると約5割となっています。

◇ 本県の林業産出額の推移

(資料：農林水産省 林業産出額)



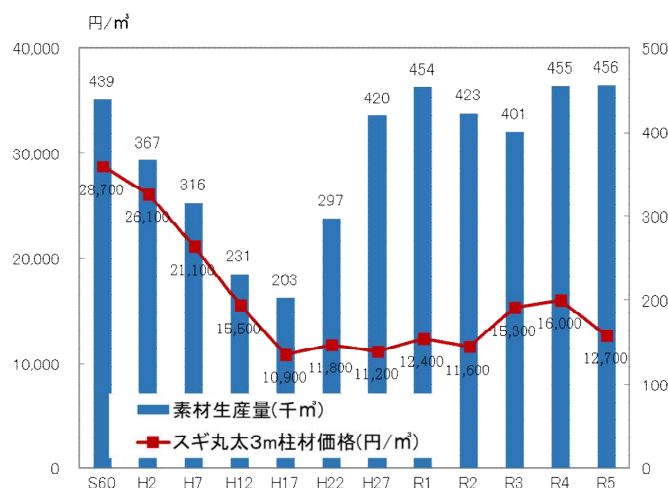
(a) 木材

素材生産については、昭和40年の65.2万 m^3 をピークに、その後の木材価格の低迷や林業労働力の減少、高齢化などにより減少傾向を示し、平成15年には18.7万 m^3 まで減少しましたが、その後は増加傾向にあり、令和5年には45.6万 m^3 (昭和40年比69.9%)となっています。

また県内の素材需要量については、平成17年を底として、増加傾向にあり、平成24年からは横ばいに推移しています。令和5年には98.0万 m^3 となっており、内訳としては、製材用が91.4万 m^3 、合板・チップ等が6.6万 m^3 となっています。

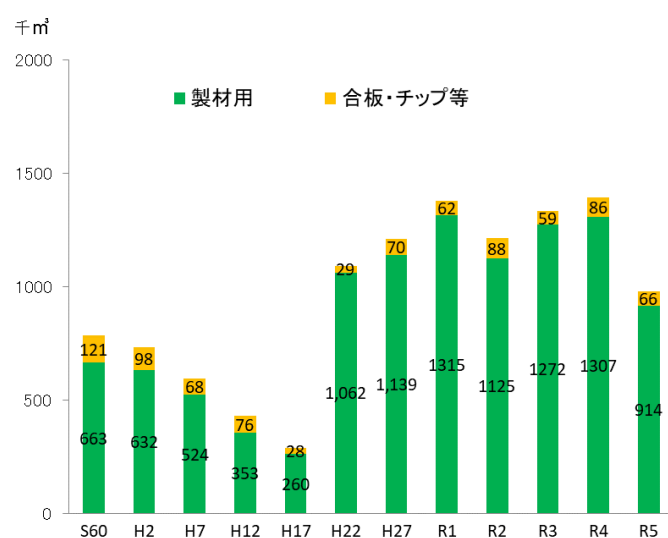
◇ 素材生産量と素材価格の推移

(資料：木材統計、木材市況)



◇ 素材需要量の推移

(資料：木材統計)



(b) 特用林産物

県内における特用林産物には、しいたけをはじめとするきのこ類や、ウルシ等の特用樹などがあります。

特用林産物の産出額は約 28.0 億円 (R5) で、このうち、きのこ類は約 27.8 億円 (約 99%) を占めています。

令和 5 年の生しいたけの生産は 692 トンで全国第 26 位 of 生産量となっています。

原木生しいたけ (292 トン) 及び菌床ひらたけ (282 トン) が全国 4 位、菌床ぶなしめじ (3,082 トン) が全国第 5 位 of 生産量となっています。

また、特用樹のうち本県産ウルシから採取される生漆は品質的に優れており、年間 180kg の生産量があり、岩手県に次ぐ全国第 2 位 of 生産量となっています。

◇ 特用林産物の生産状況

(資料:「林業産出額」農林水産省)

年次	単位	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R4	R5
特用林産産出額	千万円	610	559	456	444	276	250	307	265	280
きのこ類産出額	千万円	606	552	450	434	274	248	304	263	278
生しいたけ生産量	トン	4,744	4,108	4,101	3,100	1,385	771	766	831	692
生漆生産量	kg	1,100	920	530	298	237	178	371	268	180

○ 自立した林業経営による適切な森林の整備・管理

◆森林整備の推進

- ・経営規模の拡大に意欲的な林業経営体が行う
再造林等の森林整備に対し補助

	R4-R8	うちR7 年度計画
再造林面積	855ha	190ha



伐採後の再造林

◆自立した経営体の育成

- ・経営規模の拡大に意欲的な林業経営体が行う高性能林業機械やスマート林業機器の導入に対し補助

スマート林業に取り 組む経営体数	10経営体	9経営体
---------------------	-------	------



高性能林業機械による伐採

◆県産木材の利用促進

- ・木材利用のモデルとなる大規模な建築物の木造化・
木質化や保育園等への木製品の導入などに対し
補助

施設の木造化・木質化	35施設	6施設
------------	------	-----



建築物の木造化

○ 森林環境の保全

◆海岸防災林の保全

- ・松くい虫予防のための薬剤散布や被害木の伐倒処理、広葉樹等の植栽等を実施

植栽面積	40ha	8ha
------	------	-----



広葉樹等の植栽

◆森林環境教育

- 森林の役割や公益的機能重要性、木材利用の意義等
について理解を得るための森林・林業体験学習を実施

参加人数	23,300人	6,000人
------	---------	--------



森林・林業体験学習

5 水産業の概況

(1) 本県水産業の特徴と地位

(a) 海面の地理的特徴

本県は北部太平洋に面し、那珂川を境に北部は岩礁域、南部は砂浜域に分かれており、単調な海岸線を形成していることが特徴です。沖合では親潮と黒潮が交錯することから、寒暖両方の魚介類が漁獲される好漁場が形成されます。

(b) 海面漁業・養殖業

本県の海面では、前述の漁場特性と高い生産力を活かした多様な漁業が営まれています。遠洋・沖合漁業では、本県の基幹漁業である大中型まき網のほかに沖合底びき網等が、また、沿岸漁業では、船びき網を中心に小型底びき網、さし網等が行われています。海面養殖業は、直接外海に面しているという地理的特徴により、ほとんど行われていません。令和5年の漁獲量は 259,496t で、全国第3位です。



図 揚網中の大中型まき網船

(c) 霞ヶ浦北浦及び内水面の漁業・養殖業

本県の内水面には、全国第2位の面積を持つ霞ヶ浦北浦があり、漁船漁業やこい等の養殖業が行われています。また、那珂川、久慈川、涸沼等、大小227の河川や湖沼における漁業のほか、県北地域を中心ににじます、やまめ等の冷水性魚類の養殖が行われています。令和5年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）漁獲量は2,317tで、全国第4位です。令和5年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）養殖業の収獲量は758tで、全国第9位です。

(d) 水産加工業

沿海地区や霞ヶ浦北浦地区では、それぞれの特色を活かした水産加工品の生産が盛んです。地元に水揚げされた原料を用いた冷凍品、しらす干し、佃煮等のほか、輸入原料を用いた蒸しだこ、干しししゃも等を生産しています。令和5年の水産加工品生産量は129,667tです。

◇ 本県漁獲量（収獲量）及び水産加工品生産量、全国順位、産出額

項目	漁業種類	R4	R5	R5 全国	R5 順位	R5 シェア
漁獲量 (t)	海面漁業	285,164	259,496	2,926,411	3 位	8.9%
	内水面漁業	1,836	2,317	21,567	4 位	10.7%
	霞ヶ浦北浦	498	552	-	-	-
収獲量 (t)	内水面養殖業	862	758	30,341	9 位	2.5%
	こい養殖	763	667	1,725	1 位	38.7%
水産加工品生産量 (t)	—	138,194	129,667	2,322,603	4 位	5.6%
産出額 (百万円)	海面漁業	21,551	30,044	951,040	9 位	3.2%

(資料：漁業・養殖業生産統計)

※合計数値は、R2 から統計方法が品目毎の「主要県調査」となったことで公表されなくなったため、品目毎の数値を足し上げることで算出することとした。(R1 以前の統計よりも過少)

(2) 本県水産業の生産動向

◇ 漁獲量の全国順位が上位の本県主要魚種 (*内水面魚種) 単位：t

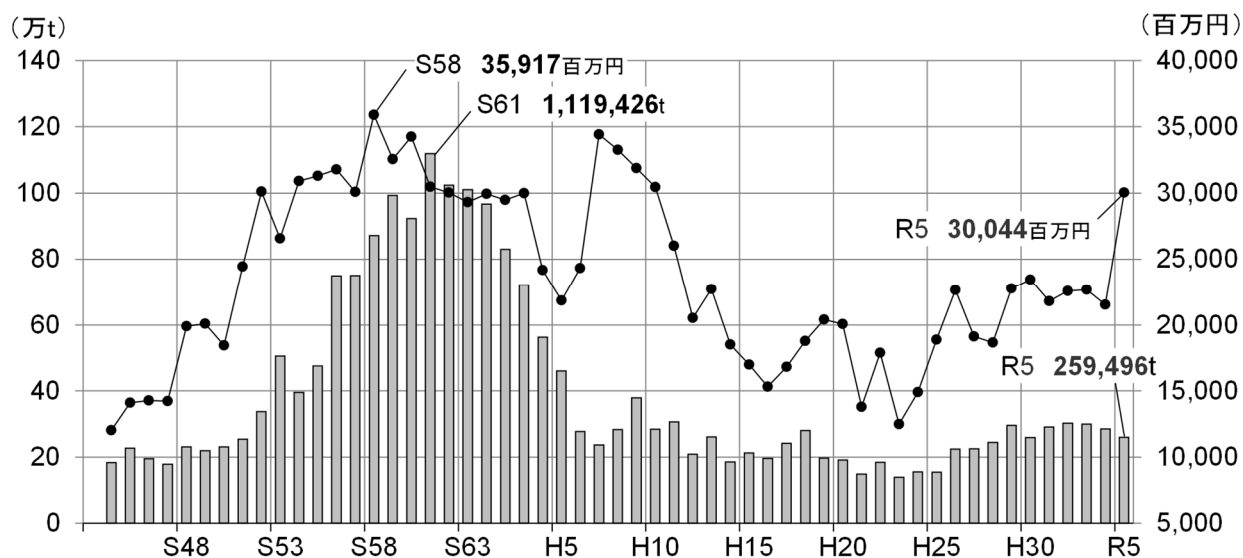
全国順位	令和 3 年		令和 4 年		令和 5 年	
1 位	まいわし	211,375	まいわし	238,418	まいわし	228,474
	さば類	73,800	*うなぎ	12	*あゆ	318
	*うなぎ	14	*こい養殖	763	*うなぎ	13
	*こい養殖	749			*えび類	80
					*こい養殖	667

(資料：漁業・養殖業生産統計)

(a) 海面漁業

本県の海面漁業漁獲量は、主に大中型まき網漁業で漁獲されるいわし類やさば類といった多獲性魚種の豊凶により大きく変動します。漁獲量は、昭和 40 年代は 20 万 t 前後で推移したところ、昭和 50 年代に入り、さば類の豊漁や、まいわし資源の急増によって増加し、昭和 61 年に 112 万 t 近くに達しました。その後、まいわし資源の大きな減少等により、平成 10 年代以降は 20 万 t 前後で推移しており、令和 5 年の漁獲量は 259,496t で、全国第 3 位です。

◇ 本県海面漁獲量及び漁業産出額の推移



(資料：漁業・養殖業生産統計)

① 遠洋・沖合漁業

大中型まき網は、本県海面漁業漁獲量の約 9 割を占める本県漁業の中核であるとともに、いわし類、さば類等を利用する水産加工業等の関連産業を支える、沿海地域の重要産業です。多獲性魚種が漁獲の大部分を占めており、令和 5 年の漁獲量は、まいわしが 228,474t で全国第 1 位、さば類が 16,253t で全国第 5 位です。

② 沿岸漁業

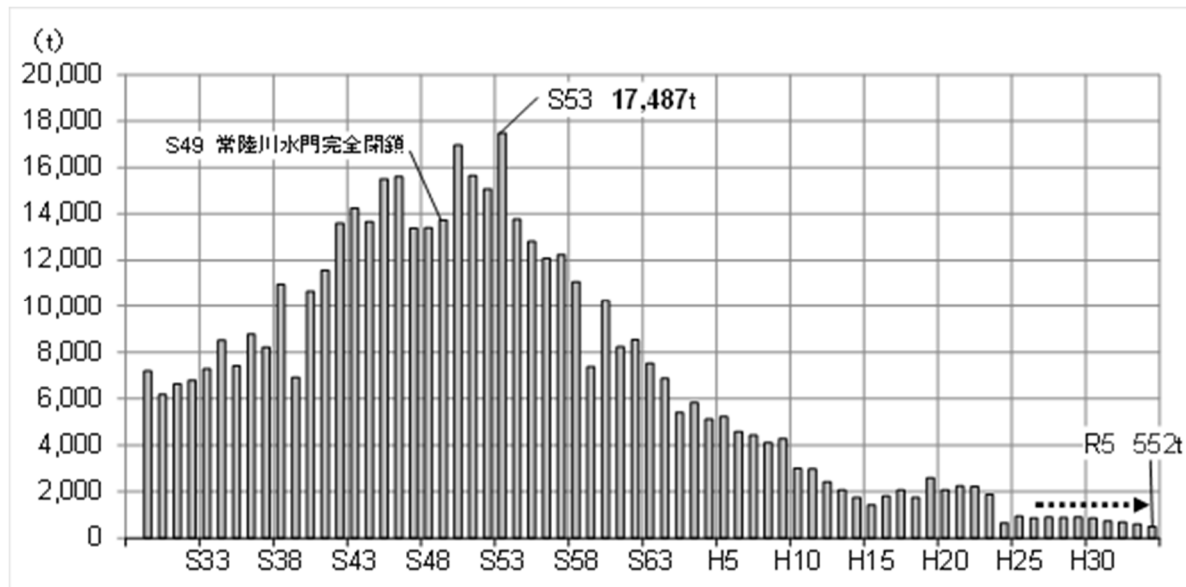
回遊性魚種が漁獲対象の船びき網は、本県沿岸漁業の基幹漁業であり、漁獲対象であるしらす等の好不漁により漁獲量が大きく変動します。本県は、沿岸漁業経営の安定化と消費者ニーズに応えるため、ひらめ、あわび等の人工種苗の大量生産・放流を実施しています。これらの魚種の漁獲量は比較的安定しており、船びき網の好不漁による収入の変動を緩和する重要な収入源です。

(b) 霞ヶ浦北浦及び内水面の漁業・養殖業

① 霞ヶ浦北浦の漁業

霞ヶ浦北浦は古くから漁業が盛んで、わかさぎ、しらうお、えび等が漁獲されています。漁獲量は、昭和 53 年の 1.7 万 t をピークに減少傾向が続いたところ、近年は 900t 未満で横ばいに推移しており、令和 5 年の漁獲量は 552t です。

◇ 霞ヶ浦北浦の漁獲量の推移

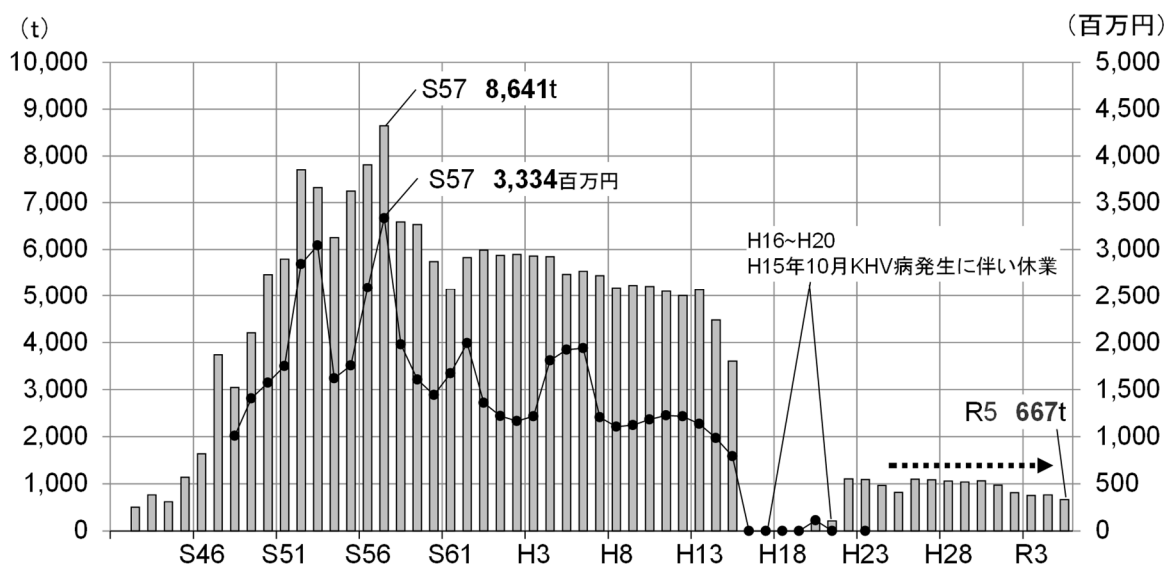


(資料：漁業・養殖業生産統計)

② 霞ヶ浦北浦の養殖業

昭和 40 年代当初、霞ヶ浦北浦に導入されたこいの小割式養殖業は、陸上池や他の湖沼よりもコスト面等で有利であったことから急速に普及し、年間収穫量約 5,000t 超の全国一の産地となりました。平成 15 年 10 月のコイヘルペスウイルス病発生により、こい養殖業は一時休業を余儀なくされましたが、病気に耐性を持つこいの生産技術の開発等により、平成 21 年 4 月に生産を再開しました。近年は 1,000t 前後で横ばいに推移しており、令和 5 年のこい養殖収穫量は 667t で、全国第 1 位です。

◇ 霞ヶ浦北浦のこい養殖収穫量及び生産金額の推移



(資料：漁業・養殖業生産統計)

H27 以降のこい養殖収穫量は霞北単独の集計がないため、茨城県全体の数量を記載

◇ 霞ヶ浦北浦の漁獲量及びこい養殖収獲量 単位：t

	H2	H12	R2	R3	R4	R5	R5 全国	R5 シェア
漁業合計	5,405	2,416	670	593	498	552	21,567	2.6%
わかさぎ	463	51	73	34	16	4	585	0.7%
しらうお	110	95	188	152	150	37	200	18.5%
えび類	1,924	1,097	87	36	19	79	158	50.0%
こい養殖	5,895	5,001	812	749	763	667	1,725	38.7%

(資料：漁業・養殖業生産統計)

H27 以降のこい養殖収獲量は霞北単独の集計がないため、茨城県全体の数量を記載

③ 内水面の漁業・養殖業

漁業の主要漁獲対象は、那珂川、久慈川のあゆや、那珂川（涸沼川）、涸沼のしじみです。養殖業は、県北地域を中心ににじます、やまめ等が養殖されています。令和5年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）の漁獲量は2,317tで、全国第4位です。令和5年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）養殖業の収獲量は758tで、全国第9位です。

(c) 水産加工業

北茨城市、ひたちなか市、大洗町、神栖市を中心に塩干、煮干、蒸しだこ、冷凍品等多様な加工品が生産されています。那珂湊（ひたちなか市）・大洗地区では、昭和40年代から輸入原料を用いた加工が行われるようになり、蒸しだこ、干しししゃも、ほっけ開き干し等の全国有数の生産地となっています。また近年は、神栖市を中心に冷凍さば等の輸出が増えました。霞ヶ浦北浦周辺は、わかさぎ、しらうお、はぜ、えび等の佃煮、煮干、焼き物等の加工が盛んで、全国有数の佃煮産地です。令和5年の水産加工品生産量は129,667tです。

◇ 本県の水産加工品生産量 単位：t

	H2	H12	R2	R3	R4	R5	R5 全国	R5 シェア
合計※1,2	322,436	158,080	149,886	148,024	138,194	129,667	2,322,603	5.6%
しらす干し	1,738	2,377	2,823	2,258	1,812	2,477	26,836	9.2%
佃煮類	3,747	3,587	-※3	-※3	-※3	-※3	-※3	-※3

(資料：水産加工統計)

※1 水産加工品生産量合計には、缶詰、魚油、飼肥を含まない

※2 合計数値は、R2から統計方法が品目毎の「主要県調査」となったことで公表されなくなったため、品目毎の数値を足し上げることで算出することとした。(R1以前の統計よりも過少)

※3 平成30年以降は「佃煮類」の項目がなく集計できないため、データなしとした

(3) 経営体及び漁業就業者の動き

本県の海面漁業就業者数は、水産資源の減少や魚価低迷による不安定な収入や、漁業未経験者が就業しにくい環境にあることから、減少傾向にあります。令和5年の本県海面漁業就業者数に占める60歳以上の男性は36.6%で、担い手の確保が課題となっています。

◇ 本県海面漁業経営体数、漁業就業者数、動力漁船数（令和5年）

	茨城県	全国
海面経営体（経営体）※1	310	65,662
海面漁業就業者（人）※1	1,083	121,389
海水漁業動力漁船（隻）※2	838	191,208

(資料：※1 2023年漁業センサス、※2 漁船統計表)

◇ 本県海面漁業年齢別・男女別就業者数（令和 5 年） 単位：人

	人数	合計に 占める割合
合計	1,083	
男	1,053	97.2%
15～24 歳	59	5.4%
25～39 歳	234	21.6%
40～59 歳	364	33.6%
60 歳以上	396	36.6%
女	30	2.8%

（資料：2023 年漁業センサス）

（４）栽培漁業

本県沿岸資源の維持増大を図るため、茨城県栽培漁業センターにおいてひらめやあわび等の稚魚・稚貝を生産し、漁業者等により放流が行われています。近年の放流実績は、ひらめ約 50～100 万尾（全長 10cm サイズ）、あわび約 24～30 万個（殻長 30～40mm サイズ）で、漁獲量の安定などの効果が見られています。

（５）漁港等の漁業生産基地

本県には 24 の漁港があり、中でも第 3 種漁港である平潟・大津・久慈・那珂湊・波崎漁港は、漁業生産、流通・加工の基地としてその機能を発揮しています。漁港については、長期計画に基づく整備を進めるとともに、施設の長寿命化対策を推進しています。また、この他に大洗町や鹿嶋市等に所在する 4 港湾も漁業生産活動の基地となっています。

参考資料：本県の代表的な魚介類

★プライドフィッシュ指定…地元漁師が自信を持って勧める魚（茨城沿海地区漁連）

茨城常磐のまさば★ 	・ 10～3 月下旬が茨城県沖の主な漁期 ・ 令和 5 年の漁獲量は 16,253t で、全国第 5 位（さば類） ・ 11～12 月に北海道や三陸でたっぷり脂を蓄えたさばが茨城県沖まで南下したところを漁獲する ・ 分厚い身と質の良さ、豊かな旨味で市場からの支持が絶大
常陸乃国まさば 	・ 新たなブランド養殖魚として、令和 6 年 11 月に発表 ・ 「生食推奨」をコンセプトに、独自のブランド基準「①本県で養殖されたマサバであること、②人工種苗由来であること、③人工餌料で育成されたこと」で生産
茨城のしらす★ 	・ 4～7 月（春しらす）と 8～11 月（秋しらす）が旬 ・ 令和 5 年の漁獲量は 4,361t で、全国第 4 位 ・ 県内各所において、船びき網で漁獲される ・ 主にしらす干しに加工されるほか、近年は生しらす丼や生食用凍結しらす「海の輝き」を売り出している
常陸乃国しらす 	・ シラスを活きたまま漁獲することができる「一艘曳き（いっそうびき）」の特長を活かし、加工されるまでのシラスの鮮度を突き詰めることをコンセプトとして令和 6 年 10 月に誕生した最高品質のブランドシラス ・ 鮮度の良さを表す「『し』字率」を 95%以上と厳格な基準を設けている
鹿島灘はまぐり★ 	・ 春が旬 「県の春のさかな」に指定 ・ 主に大洗地区～波崎地区において貝桁網で漁獲される ・ 酒蒸、潮汁、焼きはまぐりなど濃厚な旨みが楽しめる
常陸乃国いせ海老 	・ 7～9 月が旬 ・ 茨城県沿岸全域において、刺し網で漁獲される ・ 漁獲されるサイズが大きいという茨城県産イセエビの特長に着目し、スタンダード基準で 1 尾 600g 以上、プレミアム基準で 1 尾 1.0kg 以上を基準とするほか、触覚や眼が揃い見栄えがするものを厳選している
茨城のひらめ★ 	・ 秋～冬が旬 「県のさかな」「県の秋のさかな」に指定 ・ 県内各所において、刺し網や底びき網等で漁獲される ・ 「常磐もの」ブランドの代表格
茨城あんこう★ 	・ 冬が旬 「県の冬のさかな」に指定 ・ 7～8 月を除く通年水揚げがあり、主に底びき網で漁獲される ・ 平潟や水戸の名物「あんこう鍋」は全国的にも有名で「茨城あんこう」としてブランド化されている

わかさぎ 	・ 7～12 月が主な漁期 「県の淡水のさかな」に指定 ・ 霞ヶ浦北浦において、トロール漁で漁獲される ・ 佃煮、甘露煮、煮干しなどの加工品のほか、近年は鮮魚販売も積極的に行われている
霞ヶ浦 暁のしらうお 	・ 秋～冬が旬 ・ 霞ヶ浦北浦において、トロール漁で漁獲される ・ 霞ヶ浦漁業協同組合と県の共同研究で開発された品質保持技術により、令和 6 年 11 月に誕生したブランドシラウオ ・ 凍結品として販売され、漁獲直後の透明感・食感をいつでも、どこでも味わうことができる
霞ヶ浦キャビア 	・ 有名シェフの監修のもと、新たなブランドとして令和 5 年 3 月に発表 ・ 霞ヶ浦流域で育成したチョウザメの卵のみを使用 ・ 一般的なキャビアより 1 %以上低い塩分で仕上げた「やさしい味わい」が特徴
ひぬまやまとしじみ 	・ 6～7 月（土用しじみ）と 12～1 月（寒しじみ）が旬 ・ 涸沼や涸沼川において、しじみかきで通年漁獲される

参考資料：いばらきの地魚取扱店



- ・ 茨城県内の港で水揚げされた魚介類「いばらきの地魚」を積極的に PR するため、「いばらきの地魚」を買うことができる店、食べることができる店として、小売店・飲食店・旅館などのうち次のいずれかの基準を満たす店舗を認証する制度
 - ✓ 年間の魚介類取扱数量のうち、いばらきの地魚が 3 割以上を占める
 - ✓ 販売の場合（小売店など）いばらきの地魚を販売する常設の専用スペースを設けている
 - ✓ 料理や飲食の場合（飲食店・宿泊業）いばらきの地魚を主食材としたメニューを常時 3 種類以上提供している
- ・ 令和 7 年 4 月現在 155 店認証
(小売店 113、飲食店 42、宿泊業 10、同一店の複数登録あり)

参考資料：茨城県の漁港及び港湾

